

道外研修〔宮城県〕2日目

報告者：1年F組 小川 恵璃 & 村椿 彩華

～ ラムサール・トライアングル ～
から、「**スクエア**」へ

●伊豆沼

ねぐら立ち

朝の6:30から伊豆沼で行った「ねぐら立ち」観察。朝早くて寒くてとても大変でしたが、ねぐら立ちが始まった瞬間、圧倒されました。宮島沼で見たものとはまた一味違ったねぐら立ちが見られました。ねぐら立ちを観察し、写真を撮っている一般の方が道にたくさんいました。皆さん夢中にシャッターを切っていました。



図1 マガンのねぐら立ちの様子

ハスによる害

伊豆沼では、水面を覆うハスがたくさん生えています。そのハスが近年増加傾向にあり、ハスが沼底に堆積したりすることによって、沼の水質を悪化させたり、沼に残存する酸素の量が減ってしまうことで、生息する植物などが減少するという問題を抱えています。その対策方法として、沼の中の水の通り道となるところのハスを刈り取り、生育するまでの期間を調査したりしているようです。また、最近では、人手不足も深刻化しており、自動でハスを刈り取る船の開発を進め、導入を始めているそうです。宮島沼でも、沼の泥を掻き出すなどの水質改善のための活動を行っており、いろいろな共通点や、相違点を見つけることができました。

●蕪栗沼・化女沼

蕪栗沼

面積は100～150haほどで、周辺の冬水田んぼを行う田んぼと共に、ラムサール条約に登録されている沼です。マガンが数万羽、オオヒシクイが数百羽飛来するとのこと。蕪栗沼周辺では「冬水田んぼ」という稲を刈り終わった後の田んぼに水を張ったままにすることで、渡り鳥の生育場所の提供をする環境保全型農業を行っているそうです。

蕪栗沼は、沼と言っても水面の大部分はヨシやマコモなどの植物に覆われているので、水面が少ししか見えませんでした。蕪栗沼では、オオヒシクイやオオハクチョウ、タゲリなど、たくさんの野鳥が身近に見られる興味深いところでした。宮島沼でも、同じような冬水田んぼを行っていると同だったので、いろいろな地域で鳥との共生を視野に入れた活動を行っているのだなと思いました。



図2 ヒシクイたち

化女沼

化女沼も伊豆沼・蕪栗沼同様ラムサール条約に登録されています。化女沼は生物がとて多様で、約120種類の鳥が確認されています。化女沼では、周辺の環境の再生を行っていました。絶滅した植物を復活させるため、沼底の泥を掻き出し、泥の中から種子を見つけ、植物の育成をしたり、周りの荒れている里山を改善し、市民がより身近に感じられるように再生を行っているようです。

化女沼には伝説があります。沼の近くに住む美人の娘が、沼を見ていると、たくさんの蛇が見とれたそう。ある日、この娘のもとに通っていた美男が別れを告げ、いなくなると、娘は別れを嘆き悲しんだ。ある日、娘は体に異常を感じ、すると蛇の子供を産んだ。その後、娘は、自分の機織り機とともに沼に身を投げた。毎年、七夕の日に沼から、機を織る音が聞こえるそう。実際はまだ聞こえたことがないそうですが、沼に、着物を着た女性の銅像がありました。



図3 化女沼観光資料館での講義

気仙沼高校との交流

SGH（スーパーグローバルハイスクール）の指定を受けている気仙沼高校では、課題研究など、国際的に活躍する人材づくりに力を入れているそうです。それぞれの学校で行っている課題研究や学校の特徴、住んでいる地域の特徴を紹介しあい、とても盛り上がりました。

まず最初に、生徒会の皆さんとアイスブレイクを行い親睦を深めました。「〇」から思いつくものをできるだけ多くあげるチーム対抗戦でとても盛り上がり、一気に距離が近づきました。タピオカ、500円玉など、自分が思いつかないアイディアもあっていい雰囲気での活動を始められました。課題研究では、食べ物の無駄をなくす方法についての研究について発表してくれました。野菜の皮などのごみを無くすために、野菜のごみとなる部分を使ったレシピの紹介や、レシピの考案などを行っていて、興味深く、今後の日本の食生活問題にもつながってくるので、未来に向けた面白い課題研究だなと感じました。また、「なぜ学ぶのか」というお題で、お互いの意見をふせんに書いて班、全体で交流しました。自分の将来のためとか、お金のため、人生の暇つぶし、世界進出するためなど、個性あふれた意見がたくさん聞けて、有意義で楽しい時間でした。気仙沼高校の方々は、皆優しく和やかな雰囲気です。



図4 グループワークの様子



図5 気仙沼高校生徒会の皆さんと

い雰囲気です。交流が終わった後も、一緒に夕食に行ってくれたり大変貴重な経験ができました。

北海道と宮城県の方や、ご当地の食べ物など地域の違いを話したりして、有意義でとても貴重な体験ができました。意見を交流する中で、いろいろな人の様々な考えに触れ合うことができました。こういった機会を作ってくださった気仙沼高校の皆さんには感謝しかありません。本当にありがとうございました。